

2011 年度大学入試センター試験 解説 〈地理 B〉

第 1 問 自然環境の地域性

問 1 正解は④

北アメリカ大陸の C は、西が新期造山帯、東が安定陸塊である。環太平洋造山帯の一部である新期造山帯には、太平洋岸の海岸山脈と、やや内陸のロッキー山脈などの高峻な山脈が平行し、東麓は台地状の平原グレートプレーンズとなっている。安定陸塊のカナダ楯状地は、低平な長期の侵食による低平な地形である。②と迷うが、ロッキー山脈はアンデス山脈より幅が広いことから判断できる。

①は B である。オーストラリア大陸は、東岸の古期造山帯（グレートディヴァイディング山脈）をのぞいて、全体的に低平な安定陸塊となっている。

②は D である。南アメリカ大陸西岸の新期造山帯（高峻で南北に長いアンデス山脈）と、低平で広大な安定陸塊（アマゾン盆地）との対比が明瞭である。

③は A である。ペルシャ湾から中央アジアにかけての新期造山帯（アルプス＝ヒマラヤ造山帯）に含まれる地域で、いくつもの高峻な山脈（西から○に近いザグロス山脈・イラン高原・●のパミール高原付近）が存在する。

普段から地図帳を用いた学習が欠かせないことを感じさせる出題である。

問 2 正解は④

イのウクライナ付近は、乾燥帯と冷帯の境界にあたる草原地帯で、チェルノーゼムと呼ばれる黒色土壌が分布する肥沃な穀倉地帯となっている。チェルノーゼムのように、気候帯・植生帯に対応して分布する土壌を、成帯土壌という。これに対し、①～③のように局所的に分布する土壌を、間帯土壌という。

①はエである。テラローシャはブラジル高原に分布する暗紫色の間帯土壌である。

②はウである。レグールはインドのデカン高原に分布する黒色の間帯土壌である。

③はアである。テラロッサは地中海沿岸に分布する赤色または赤褐色の間帯土壌である。

基本的な問題であり、必ず正答したい。

問 3 正解は②

サンフランシスコの位置するアメリカ合衆国西海岸のカリフォルニア州には、地中海性気候（Cs）が分布する。この気候区では中緯度高圧帯の影響で夏に乾燥するので、7～9月の降水量が極端に少なく、グラフは「左上がり」の形の②に該当する。

①はプサン（釜山）である。日本と同じ温暖湿潤気候（C f a）と温帯冬季少雨気候（C w）の境界にあたり、モンスーン（季節風）の影響を強く受け、夏に高温湿潤・冬に乾燥する。そのため、グラフは「右上がり」の形となる。

③はパリである。西岸海洋性気候（C f b）で、暖流や、その上を吹く偏西風の影響を受ける大陸西岸の気候である。気温の年較差・降水量の季節変動が小さく、緯度の割に冬でも温和なため、グラフは「上下に短い」こじんまりした形となる。

④はモントリオールである。冷帯（亜寒帯）湿潤気候（D f）で、冬の寒さが厳しく、気温の年較差が大きいため、グラフは「上下に長い」形である。

ハイサーグラフはセンター試験では頻出である。また、気候グラフの問題では C s 気候がよく扱われる。

問4 正解は③

カに該当するのは L（ミシシッピ川）である。流域は冷帯～温帯で、流量の季節変動はそれほど大きくないが、春先には山岳地帯からの雪解け水が流入し、流量が増大する。

参考 ミシシッピ川の流量グラフは、2003 年第 1 問問 6 でも出題されている。

キに該当するのは K（ガンジス川）である。流域は熱帯のサバナ気候（A w）で、雨季と乾季が明瞭である。そのため、流量の季節による変動が 3 地点中最大となっている。

クに該当するのは M（アマゾン川）である。流域が熱帯雨林気候（A f）および熱帯モンスーン気候（A m）で、年中多雨である。そのため、流量の季節による変動は 3 地点中最小である。

河川流量の問題は、過去に何度も繰り返し出題されている。

問5 正解は②

シのセイロン島（スリランカ）は、インド半島（インド亜大陸）とともにインドプレート上の安定陸塊の一部である。赤道に近い低緯度側（南側）は熱帯雨林気候、高緯度側（北側）はサバナ気候が分布する。

①はサ（マダガスカル島）である。アフリカ大陸とともに安定陸塊の一部となっている。南東貿易風の影響で、島の東側が湿潤気候、西側が乾燥気候と、東西の気候が大きく異なる。

参考 マダガスカル島の気候は、2008 年度第 1 問問 6 でも取り上げられている。

③はセ（キューバ島）である。環太平洋造山帯に属する新期造山帯に位置する。赤道からやや離れた北回帰線近くで、サバナ気候が分布する。

④はス（フィリピン諸島）である。環太平洋造山帯に属する新期造山帯に位置する（ピナトッポ火山が有名である）。赤道に近く、熱帯雨林気候（北部は熱帯モンスーン気候）が分布する。

先に、赤道の位置を確認してから考えるとよい。

問6 正解は⑤

タ（裾礁）に該当するのはRである。日本の南西諸島にみられるサンゴ礁には裾礁が多い。チ（堡礁）に該当するのはPである。オーストラリア大陸北東岸に形成されたグレートバリアリーフは「大堡礁」と訳される。

ツ（環礁）に該当するのはQである。マーシャル諸島のビキニ環礁（かつてのアメリカ合衆国の核兵器実験場）が有名である。

難問であるが、解説のように日常的な学習の中で得られる知識を活用したい。なお、サンゴ礁の形態については、1995年（追試）第2問問4で出題されている。

第2問 世界の資源と産業

問1 正解は③

アは輸出量である。中東（西アジア・ペルシャ湾岸）やロシアなど、原油の産出が多い地域に円があるので、一見イと似ている。しかし、アメリカ合衆国や中国には円がない。両国は国内消費量が大きいため、輸出余力を持たないからである。

イは産出量である。アの説明で触れた国や地域の他に、メキシコ・ノルウェー（北海油田）・ベネズエラ・ナイジェリアなどの産出国も読み取れる。

ウは輸入量である。主要産出地域に円がない。一方で、微量にしか原油を産出しない日本に円がある。

産業に関する分布図は頻出だが、日本がどうなっているかをチェックすると考えやすい。

問2 正解は③

ドイツでは、1986年にウクライナで発生したチェルノブイリ原子力発電所の事故以来、原子力発電所の安全性への不安が高まり、2000年には将来の原発全廃が決定された。このような背景の下で、ドイツでは代替エネルギーの開発が積極的に進められた。とくに地球温暖化との関連で化石燃料の消費が問題視されるようになると、クリーンエネルギーの普及に拍車がかかった。近年、脱原発政策については見直しが進んでいるが、クリーンエネルギーの利用では世界のトップに立っている。とはいえ、このような新エネルギーが総発電量に占める割合は6.7%に過ぎず、大部分は石炭や天然ガス等による火力発電（66.7%）などの既存エネルギー源に依存している（2007年）。

参考

風力発電設備容量 (2009 年)			太陽光発電設備容量 (2008 年)		
	国名	(千 kW)		国名	(千 kW)
1 位	アメリカ合衆国	35159	1 位	ドイツ	5340.0
2 位	ドイツ	25777	2 位	スペイン	3354.0
3 位	中国	25104	3 位	日本	2144.2
4 位	スペイン	19149	4 位	アメリカ合衆国	1168.5
5 位	インド	10926	5 位	イタリア	458.3

①は誤り。アメリカ合衆国では 1979 年に発生したスリーマイル島原発事故以来、原発の新規建設がストップした。現在、原子力は発電エネルギー源の 19.2% を占めるにすぎない。(火力 73.3%、水力 6.3%、2007 年)

参考 最近、アメリカ合衆国では、電力需要の増大と地球温暖化防止の観点から、約 30 基の原発の新規計画が明らかになっている。

②は誤り。インドの発電エネルギー源は 81.0% が火力であり、水力は 15.4% にすぎない。火力発電はおもにインドで産出の多い石炭 (世界第 3 位) を燃料としている。この文の内容は、ノルウェーやアイスランドなどにあてはまる。

④は誤り。ブラジルの発電エネルギー源は 84.0% が水力である。世界最大級のイタイブダムは有名である。

参考 近年、ブラジルでは海底油田の開発が進み、産油国へと変貌しつつある。内陸の天然ガス田開発も行われている。

③の内容のうち、「石炭などによる火力発電」の「石炭」の正誤判定は難しいが、誤文の誤りが明らかなので、消去法でも正解にたどり着くだろう。

問3 正解は②。

B は韓国である。日本は長らく世界最大の造船国であった。ところが韓国は 1990 年ころから造船竣工量を伸ばし、2000 年には日本を抜いて世界一となり、現在その差はさらに開いている。このことから、A はイギリス、サが 2007 年とわかる。

参考 中国の造船竣工量も急増し、2009 年には日本を逆転し世界第 2 位になっている。2009 年には、韓国・中国・日本の 3 か国で、世界の造船の 90% を占めている。

問4 正解は②

セメントの原料である石灰石は、日本が自給できる数少ない鉱物資源である。このことから、日本が上位にある統計を選択する。また、急速な経済成長によって、建設ラッシュが起きている中国では、セメントの需要が特に高いはずである。

- ①はパルプである。パルプの原料である森林資源が豊富な北アメリカや北欧諸国が上位にある。
 - ③は砂糖である。砂糖の原料となるサトウキビは熱帯、テンサイは冷帯での生産が主である。
 - ④はワインである。ワインの原料であるブドウは、地中海式農業の特産品のひとつである。
- ①・③・④が決めやすいので、消去法で正答にたどり着く者も多かっただろう。

問5 正解は④

④は誤文であり、このような事実はない。鉄鋼業や石油化学工業のような大規模装置を必要とする産業では、既存工場の海外移転は困難である。

- ①は正しい。貿易摩擦のほか、1985年のプラザ合意により円高が進行すると、為替差損を避けるためもあって自動車関連企業による現地生産が進んだ。
- ②は正しい。円高の影響により、日本の製造業は国際競争力を回復するために海外移転を進めた。国内では産業の空洞化が問題となった。
- ③は正しい。ベンチャー企業は、情報へのアクセスと人材の確保のために大都市圏に立地する傾向にある。

誤文の判定に迷うところのない設問である。

問6 正解は⑤

タ（ボストン周辺地域）はMに該当する。「高級毛織物」は伝統的な産業であり、建国当時から発達していた東海岸の都市と推定できる。「大学」がマサチューセッツ工科大学（MIT）など、「先端技術産業」の集積地がエレクトロニクスハイウェイをそれぞれ意味することから、マサチューセッツ州のボストン周辺地域と判断する。

チ（ヒューストン周辺地域）はKに該当する。「石油化学工業」はメキシコ湾岸油田の原油資源と結びつけられる。「NASA」「航空宇宙産業」が、テキサス州のヒューストンに存在することはあまりにも有名である。

ツ（デトロイト・ピッツバーグ周辺地域）はLに該当する。「交通の利便性」は五大湖などの水運、「周辺の鉱産資源」は五大湖西の鉄鉱石（メサビ）・五大湖南の石炭（アパラチア）を指す。自動車工業都市はデトロイト、鉄鋼業からIT産業などへ転換した都市はピッツバーグである。

アメリカ合衆国の工業都市に関する地誌的な知識が必要だが、内容は平易である。

第 3 問 生活文化・都市

問 1 正解は③

D は東南アジアにおけるインドネシアのカリマンタン島を示している。赤道上の熱帯雨林気候区であり、年中高温多雨のため湿度が高く、住居には通気性が求められる。したがって、伝統的に高床式の住居が発達している。

①は C に該当する。「イズバ」の語は知らなくても、「厳しい寒さ」から判断可能である。

なお、イズバとはスラブ民族の伝統的な木造家屋のことをいう。

②は B に該当する。「樹木が少ない」「日干しレンガ」から、乾燥気候が想定できる。

④は A に該当する。「白壁の石造り住居」から、地中海地方と結びつく。

ごく常識的なレベルで判定できる問題である。

問 2 正解は①

A はイスラーム（イスラム教）である。イスラームは、発祥の地である西アジアを中心に、南アジア、東南アジア、中央アジア、北アフリカに広がっている。信者数が多く、インドネシア（約 2 億人）、パキスタン（約 1.8 億人）、バングラデシュ（約 1.5 億人）だけでも 5 億人を超える。

I はカトリックである。カトリックはヨーロッパ南部・ラテン系民族に信者が多く、主にスペインやポルトガルの植民地となった中央・南アメリカにも伝えられ、普及した。

U はプロテスタントである。プロテスタントはヨーロッパ北西部・ゲルマン系民族に信者が多く、北アメリカなどに広がった。

問 3 正解は②

ソウルは韓国の首都であり、国の総人口（約 4800 万人）の 2 割（約 1000 万人）が集中する首位都市（プライメートシティ）である。また、韓国は 1970 年代以降の経済成長によって先進国化しており、大企業も多いが、その本社の多くは首都に一極集中している。

①はニューヨークである。世界有数の大都市であり、アメリカ合衆国の経済の中心でもあるので、大企業の本社数が最も多い。

③はシャンハイ（上海）である。中国の総人口は約 13 億人であり、例えばその 10% を考えると約 1.3 億人となるが、これは都市人口としては大きすぎるので、したがって、「国の総人口の占める市域人口の割合」が 1.1% の③が該当すると判断できる。

④はプラハである。旧社会主義国チェコの首都であり、市場経済の導入から間もないため、大企業の本社は存在しない。

①・③から決めていくと考えやすいだろう。

問4 正解は④

リオデジャネイロ（ブラジル）のような発展途上国の大都市では、周辺の農村部から余剰労働力が押し出されるように人口流入するが、就業機会は十分でなく、非正規の職業で糊口をしのぎ、不良住宅地区（スラム、ラテンアメリカではファベラと呼ばれる）で暮らしている。

①は誤り。シドニーはオーストラリアの最大都市である。多文化主義を採用するオーストラリアは移民の多い国であるが、アジア系やヨーロッパ系が多く、アフリカ系黒人は少ない。

②は誤り。パリの都心部マレ地区では、歴史的な建築物を修復・保存しながら再開発を進めている。古い建築物を取り壊す一掃型（クリアランス型）の再開発は、パリ近郊のラ＝デファンス地区などで行われている。

③は誤り。メキシコシティは盆地状の地形に位置しており、市街地を取り巻く不便な山地の斜面には不良住宅地区が広がっている。

選択肢における誤りの内容が明確なので、迷いにくい設問である。

問5 正解は⑤

Fは西宮市である。大阪と神戸の間に位置する大都市圏の住宅都市であり、人口増加率は高い。1995年の阪神淡路大震災で大きな被害を受けた西宮市では、直後に人口が激減したが、その後の復興によって近年は人口が回復傾向にあることも影響している。

Gは豊田市である。巨大自動車企業であるトヨタの本社があるため、自動車関連産業に従事する第2次産業就業者の割合が極端に高い。

Hは長崎市である。九州の西部にある地方都市であり、地方圏共通の傾向として人口流出と高齢化が進んでいる。

問6 正解は⑤

東京大都市圏の周辺地域には、東京への通勤者のベッドタウン（住宅都市）が多く存在するが、東京都区部への通勤率は東京への距離が近いほど高くなるので、この分布図は都心部を中心にした同心円状に、外へ行くほど数値が低くなるように（つまり薄くなるように）描かれるはずである。よって、都心から最も遠いJには色の薄いク、Kには西ほど色の濃いカ、Lには東ほど色の濃いキが、それぞれ該当する。

常識を働かせて、容易に判断できる設問である。

第 4 問 アフリカの自然と生活

問 1 正解は②

アフリカ大陸の大部分は安定陸塊であり、その地形はテーブル状の台地となっている。全体として起伏は少ないが、北西端に新期造山帯（アトラス山脈）、南東端に古期造山帯（ドラケンスバーグ山脈）があるほか、東部の大地溝帯周辺にキリマンジャロ山・キリニャガ山などの標高 5000 m を超える高山やエチオピア高原がみられる。よって、標高の低い方から **ア→ウ→イ** と並ぶ。

問 2 正解は②

B はサハラ砂漠南縁のサヘル地方を示しているが、ここでは商品作物としてラッカセイの生産が盛んである。

- ①は A に該当する。地中海式農業の主産物である「オリーブ」から判断できる。
 - ③は D に該当する。マダガスカル先住民は東南アジアから移住したと考えられており、伝統的に稲作が行われていることから、「米飯」と結びつく。
 - ④は C に該当する。原始的焼畑農業で栽培される「ヤムイモ」や「豊富な森林産物」などから熱帯雨林の広がる赤道周辺と判断できる。
- 食文化そのものに関する知識がなくとも、農業生産の特徴と結び付ければよい。

問 3 正解は⑥

カはラクダである。乾燥に強いラクダは、伝統的に砂漠における運搬・移動手段として利用されてきた。したがってサハラ砂漠周辺のみ分布する。また、一般的な家畜とはいえないので総頭数は少ない。

キはブタである。豚肉食はイスラームにおいて禁忌（タブー）とされており、ムスリム（イスラーム信者）の多い北アフリカが空白になっている。

クはウシである。ウシは一般的な家畜であり、総頭数が多い。ほぼ全域で飼育されているが、熱帯地方ではツェツェバエが媒介する家畜の風土病が蔓延しており、ウシやウマなどの大型家畜の飼育が困難である。

家畜の統計を扱いながら、宗教などの分布も考えさせる良問である。

問 4 正解は③

ケニアでは植民地時代から、かつてイギリス人が収奪した涼しい高原地帯ホワイト・ハイランドを中心に、茶の栽培が盛んである。最近では、バラ切り花の生産が増加しており、中東ドバイを経由して日本にも輸出している。

- ①はモロッコである。モーリタニアとともに日本向けのタコ（魚介類）の輸出が有名である。また、ヨーロッパに近く、安い労働力を利用した軽工業（衣類）や組立工業（機械類）が立地している。
- ②はアルジェリアである。北アフリカにはリビアやエジプトなど産油国が多い。アルジェリアは原油・天然ガスに依存するモノカルチャー経済となっている。
- ④はザンビアである。内陸国のザンビアには銅ベルトとよばれる銅の産出地帯があり、タンザン鉄道で沿岸国の積出港（ダルエスサラーム）に輸送される。

問5 正解は⑥

P はスに該当する。ヨーロッパ諸国が植民地支配に際して建設した都市は、一般に交易に便利な沿岸の港湾部、または白人が暮らしやすい高原部に立地する。

Q はシに該当する。岩塩は乾燥帯のサハラ砂漠、金や森林産物は熱帯のギニア湾岸の産物である。こうした交易活動が盛んに行われた都市の代表例としてトンブクトゥ（マリ）があげられる。

R はサに該当する。スワヒリ語は東アフリカの言語であり、ケニアやタンザニアで公用語となっている。

参考 スワヒリ語については、2007 年度第 4 問問 5 の正誤判定問題でも、アフリカのどの地域の公用語であるかを問われている。

問6 正解は⑤

タは南アフリカ共和国である。「人種差別撤廃運動」がアパルトヘイトと結びつけば判断できる。

チはエチオピアである。植民統治を受けず独立を保ったことや、古いキリスト教（コプト派）に関する記述から判断できる。

ツはガーナである。「貿易のために立ち寄る」から沿岸国とわかる。なお、「フランスの植民統治を受けた」近隣の国とはコートジボワールやサヘルの国々などを指す。ガーナ自体はイギリスの植民地であった。ギニア湾岸の旧イギリス植民地は、他にナイジェリアがある。

本問では、ポピュラー音楽が扱われているが、とくに音楽の知識が必要なわけではない。文中のヒントを丹念に拾ってほしい。

第 5 問 現代世界の諸課題

問 1 正解は②

A はアフリカである。多産少死型の国が多く、人口爆発が起きているので、20 世紀後半に人口が急増している。

B はヨーロッパである。18 世紀末に始まった産業革命によって、19 世紀には人口が大きく増加したが、20 世紀後半になって人口の高齢化が進み、人口の増加率がやや低下している。

C は北アメリカである。移民が多いため、先進国地域としては人口増加率がやや高めである。アメリカ合衆国の人口が約 3 億人であることから判断できる。

問 2 正解は④

韓国の経済レベルは中～上位である。よって、「1 人 1 日当たり供給栄養量 (熱量)」は高く、「5 歳未満児死亡率」は低い。しかし、国土が狭いうえ、資本や労働力を工業生産に集中させてきたため、農業はふるわず穀物は輸入に依存している。

①はドイツである。経済レベルは上位であり韓国に似ているが、小麦やライ麦の生産が盛んなうえ、EU の共通農業政策による保護もあって穀物自給率が高い。

②はインドである。経済レベルは下位で、「1 人 1 日当たり供給栄養量 (熱量)」は低く、「5 歳未満児死亡率」は高い。一方で、高収量品種の導入 (「緑の革命」) によって穀物の自給はほぼ達成している。

③はサウジアラビアである。原油の輸出による収入で国全体の経済レベルは高いが、貧富の差が大きく、多くの国民の生活レベルは中～下位である。また、砂漠の広がる国土の特徴から、食料の多くを輸入に依存している。

まず先進国と発展途上国に分けてから考えたい。

問 3 正解は⑤

P はロシアである。「1990 年代の国家体制変革」は 1991 年の旧ソ連崩壊と、その後の市場経済体制への転換を指す。「独立を求める民族運動」は、ムスリムの多いチェチェン共和国などで発生している。

Q はスーダンである。干ばつや飢餓はアフリカ諸国で見られる現象である。スーダンでは、イスラームの北部アラブ系政府により、キリスト教徒などの南部の黒人が弾圧を受けている。また、西部のダルフル地方でも、アラブ系民兵によるアフリカ系住民襲撃が問題となっており、多くの難民が生じている。

参考 スーダン南部では、2011 年 1 月に分離独立を問う住民投票が行われた。

R はミャンマーである。軍事政権によって、民主化運動のリーダーであるアウンサン・スーチー女史（ノーベル平和賞を受賞）に対する政治的迫害が続いている。
日ごろから新聞や TV ニュースに目を通しておくことは重要である。

問4 正解は③

「ODA 総額」を「GNI に対する ODA 総額の比率」で割れば、GNI の総額が計算できる。概算で計算すると、GNI 総額はおよそ、①が約 25000 億ドル、②が約 45000 億ドル、③が約 8750 億ドル、④が約 20000 億ドルとなる。イタリア、オランダ、日本、フランスの 4 か国はいずれも上位の先進国であるが、オランダは小国であり、人口規模は小さい。したがって、GNI 総額が人口規模にほぼ比例するとすれば、③がオランダであるのは明らかである。オランダは、北欧諸国と並んで ODA の GNI 比が高い。

参考 イタリア、オランダ、日本、フランス 4 か国の面積・人口

	面積 (千km ²)	人口 (千人)
イタリア	301	59870
オランダ	37	16592
日本	378	127558
フランス	552	62343

(面積は 2007 年、人口は 2009 年)

- ①はフランスである。フランスの旧植民地は北アフリカにも多いが、サハラ以南にもコートジボワールやマダガスカルなどがあり、イタリアよりも関係が深い。また、ODA 総額が日本より多いのは、アメリカ合衆国・フランス・ドイツ・イギリスである (2009 年)。
- ②は日本である。東・東南アジア・オセアニアとの関係から容易に判断できる。また、日本の ODA の GNI 比が低いこともよく問われる。
- ④はイタリアである。アフリカの旧イタリア領としては、北アフリカのリビアが代表的である。
- 上のような計算をすれば難しくないが、それに気づかないと日本以外の判定に悩む。

問5 正解は②

カは E に該当する。西ヨーロッパで放出された大気汚染物質が偏西風で運ばれたスウェーデンなどで酸性雨が問題化した。

キは G に該当する。東南アジア諸国では日本向けに輸出する木材の伐採や、油ヤシなどの商品作物を栽培する農園の開発のために熱帯林の減少が著しい。熱帯林の減少によって、二酸化炭素の吸収量が減少して地球温暖化を促進することや、生物多様性が低下し遺伝子資源が失われることが問題となる。

クは F に該当する。長江のサンシャダムについての説明である。
基本的な問題である。

第6問 地域調査（佐賀県）

問1 正解は②

②は誤り。2つの神社の間は、2万5千分の1地形図上で約4cmであるから、実際には $4\text{ cm} \times 25000 = 100000\text{ cm} = 1000\text{ m} = 1\text{ km}$ である。なお実際の距離2kmは、2万5千分の1地形図上では8cmとなる。

①は正しい。中央部を囲むような旧河道が読みとれる。

③は正しい。図1と選択肢の文章から干拓地とわかる。図2Cの南部に-1mの標高点がみられるので「0m以下」である。

④は正しい。直線状に縦横にのびる水域は、河川ではなく人工的な水路であり、農業用水と考えられる。

誤文がはっきりしているので、比較的取り組みやすい。

問2 正解は③

③は誤り。1998年の図の城跡西側の濠（「城内1丁目」と「赤松町」の間）の西側を見ると、1966年の図とほぼ同じ位置に寺院の地図記号（卍）が6～7個みられる。

①は正しい。1998年の図では田の地図記号（田）がみられない。

②は正しい。バイパス道路とは、市街地の混雑区間などを避けて迂回する道路のことである。「本庄」の字を横切る位置を東西に走る道路が新設されているが、1998年の図の北部を東西に走る国道207号線と平行しており、西端でその道路とつながっているため、バイパスとわかる。

④は正しい。1966年の図では屈曲している水路が、1998年の図では直線化している。市街地の地形図はやや見づらいが、落ち着いて取り組みれば簡単な問題である。

問3 正解は②

- ②は誤り。空中写真から、人の移動のような動態は読み取れない。
- ①は正しい。商業統計表（経済産業省が作成）や商業統計調査（各地方自治体が作成）などが利用できるだろう。
- ③は正しい。聞き取り調査によって、大まかな傾向を知ることは可能だろう。
- ④は正しい。公立図書館には、その地域に関する文献資料が充実していることが多い。誤文が明確で、常識だけで判断できる。

問4 正解は④

アはGに該当する。古くからの商業地区には、小売業や飲食業の低層小規模店舗が立ち並ぶ商店街が形成されている。しかし、モータリゼーションが進展すると、駐車場の整備が遅れたア地域は、ウ地域に客を奪われ、空き店舗が目立つ「シャッター通り」化していることが各地で問題となっている。

イはHに該当する。企業のオフィスや官公署が集中する都市の中心地域を**中心業務地区**（C.B.D.）という。地方都市のC.B.D.には、銀行や大企業の支店・支社、報道機関などが集中しやすい。建物は土地の有効活用のため中高層ビルが多くなる。

ウはFに該当する。郊外では自家用車による買い物客を見込んで、広大な用地に平置き**の駐車場**を備えた平屋の**大型店舗**が立地する。いわゆるロードサイド店には、衣料などの専門スーパーやショッピングセンター、ファストフード店やファミリーレストランなどが多い。

参考 2009 年度第 4 問 問 6 は同様のテーマを写真を用いて出題している。

問5 正解は③

Jは**水稲**である。水稲耕作をおこなう水田は平地に多い（筑紫平野など）。ただし、日本の農業は稲作中心に発達してきたため、山間部でもわずかな平地や斜面の棚田を利用して盛んに米作りが行われている。そのため、平地中心に**全域**で生産されている。

Kは**大麦**である。麦類は水田二毛作における裏作として栽培されることが多く、水稲と同様に平地に集中する。JとKの判別で悩んだ受験生もいるようだが、**総収穫量**をみれば容易に判別できる（水稲の方が圧倒的に多い）。なお、大麦は、ビール・しょう油・味噌などの食料品工業の原料、家畜の飼料などに利用される。

Lはミカンである。ミカンは日当たりのよい斜面（段々畑）で栽培される樹木作物である（平地での栽培に比べ、樹木全体に日光が当たりやすい）。したがって丘陵地・山地が生産の中心となる。

出題された図中のデータは、隅々まで利用したい。

問6 正解は⑤

カ（フィリピン）はRに該当する。フィリピンの公用語はフィリピン語（タガログ語）と英語である。看板の文字と「サービス業」から、飲食店などで接客業などに従事する女性労働者を中心としたフィリピンとわかる。すると、グラフは文中にあるように2000年代半ばから減少するRである。

キ（中国）はPに該当する。看板の文字（中文）と「著しい経済成長」から中国とわかる。グラフは2000年代に急増しているPである。

ク（韓国）はQに該当する。看板の文字はハングルである。在日韓国・朝鮮人は、1世・2世の高齢化、日本人との婚姻などを契機にした帰化などによって、その人口が漸減している。

工夫された設問であるが、内容は平易で、基礎知識はほとんど不要である。